



井形浩治・経営学部長に聞く

近年、経営学部第一部経営学科は志願者が増加して倍率が高くなり、入学が難しいというイメージを持たれていました。そのため経営学部では2012年度入試から定員増を行い、従来より85名多い300名を募集することになりました。

東日本大震災以降、これまでのような企業社会の倫理では解決できない大きな課題が明確になっています。経営学科は今回の定員増に伴い、そういった喫緊の重要課題も含めて、これからの時代に役立つ新しい視点を持った人材を育てたい。そのため教学面に關する今後の方針として四つの柱を表明し、2012年度からの実現を目指しています。

一つ目の柱は「環境」です。世界を含めて大きく変わっていく環境を新たな観点から捉え直し、学生と共に考えていきたい。二つ目は「国際」です。経済発展が著しいBRICS(ブラジル、ロシア、インド、中国など)に関する、国際経営のさらなる可能性やリスクについて、これまでと異なる観点から追究していきたい。三つ目は「倫理」です。今後は企業トップの倫理観が重要な経営ファクターになると考え、法遵守を超える倫理観についても考えていきたい。そして四つ目は「再生」です。企業は利益を生み出すだけでなく、人や社会の再生に寄与していく必要があるという観点から、雇用や税金に収まら

環境・国際・倫理・再生を柱に 人材育成

2012年度から
経営学部定員300名

「一歩ずつ前進」 決意の旅立ち



卒業証書を授与する徳永学長(左)

2011年度春学期の大阪経済大学卒業式・学位授与式が、9月16日午前10時から、C館31教室で行われた。春学期の卒業生は、経済学部36名、経営学部第一部22名・第二部4名、経営情報学部13名、人間科学部10名、大学院経営学研究科5名の計90名。学部代表の小笠原一平さん(経営学部ビジネス法学科)と、研究科代表の成瀬俊道さん(経営学研究科)に、卒業証書・学位記が授与された。

徳永光俊学長は式辞として「卒業や就職などの目標と『目的』は異なる。人生の目的とは何かを今後一人ひとりが考えてほしい。そして大経大の卒業生であることに誇りを持ち、初代学長・黒正蔵博士の言葉『道理貫天地』を胸に刻み、道理とは何かについても考え続けてほしい」と、はなむけの言葉を贈った。続いて勝田泰久理事長が「社会で出会う困難やジレンマなどを跳ね返し、厳しさに耐えて勝ち抜いてほしい。健康に留意し、自分の良さを生かし、世のため人のため働いてほしい」と卒業生・修了生を激励。卒業生代表の小笠原さんが「大経大で学んだことを噛みしめ、社会でも積極的に挑戦し、一歩ずつ前進していきたい」と答辞を述べた。



答辞を述べる小笠原さん



経営学部での卒業証書授与

2011年度春学期卒業式・学位授与式



祝辞を述べる勝田理事長

主な記事

contents

- (1面)「経営学部定員300名」
井形浩治学部長に聞く
- (2面) ホームカミングデー開催
- (3面) 大樟会だより
- (4・5面) ZEMリークランプリ決定
- (6面) 研究紹介・創立80周年記念講演会
- (7面) 黒正杯スピーチコンテスト
- (8面) 「17歳からのメッセージ」表彰式

卒業式・学位授与式のご案内

2011年度大阪経済大学 卒業式・学位授与式を下記のとおり挙行いたします。

【午前の部】

対象学部：経済学部、人間科学部、経済学研究科、人間科学研究科
場 所：70周年記念館 フレアホール
日 時：2012年3月13日(火) 9:30開場 10:00開式

【午後の部】

対象学部：経営学部、経営情報学部、経営学研究科、経営情報研究科
場 所：70周年記念館 フレアホール
日 時：2012年3月13日(火) 12:30開場 13:00開式

【お問い合わせ】

大阪経済大学 教学部 学務課
電話(06) 6328-2431代

- 学生・保護者の方用の駐車場がありません。車での来場はご遠慮ください。
- 収容人数の関係で、保護者の方は式場内へお入りいただけないこともあります。あらかじめご了承ください。なお、同館3階の教室において、式典の模様を同時放映いたします。



オープニングセレモニーで学歌斉唱

大樟会総会 ホームカミングデー 同時開催



大樟祭開催



つながる力へ絆 深める

2011年度の大樟会(同窓会)総会とホームカミングデーが10月30日、午前11時から本学キャンパスで行われた。今回は大樟会総会とホームカミングデーを、大学祭「大樟祭」の日程に合わせて同時開催。たくさんの方のOB・OGが恩師や旧友との再会を楽しみ、さらなる絆を深めた。

祝辞を述べる勝田理事長



まず午前11時からオープニングセレモニーがD館36教室で行われ、80周年記念事業委員会の北村實幹氏が、「今回は、大学と大樟会が共同で開く初めてのホームカミングデー。本学の基本コンセプトである「つながる力」を体現する行事としてぜひ成功させたい。さまざまな出会い・再会があると期待している」と開会言葉を述べた。その後、勝田泰久理事長が「おかえりなさい」と会場の同窓生に呼びかけ、「80周年を控えた今、大学と同窓会が一体となって新たな世紀に向かっていけることは心強く嬉しい。今後皆さんと力を合わせて大学の発展のため尽くしていきたい」と祝辞を述べ、本学の運営・教学面の現状についても簡単に説明した。

歓迎の言葉を述べる徳永学長



交流レセプション



歓迎の言葉を述べる徳永学長は、「80周年を控えた今、大学と同窓会が一体となって新たな世紀に向かっていけることは心強く嬉しい。今後皆さんと力を合わせて大学の発展のため尽くしていきたい」と祝辞を述べ、本学の運営・教学面の現状についても簡単に説明した。

OBによる三七拍手



続いて徳永光俊学長が、「同窓会の協力で初めてのホームカミングデーを開催できて嬉しく思う。学長に就任以降、『ゼミ・マナー・就職』を柱に教育の質を高め、社会に発信しよう」と頑張ってきた。

また「大経大フライド」という形で母校への誇りを育てることが本学の80周年を作っていくと考えている。同窓生の皆さんも母校の発展のため尽くしてほしい」と歓迎の言葉を述べた。

その後の大樟会総会では、まず物故者の冥福を祈って黙祷を行い、続いて佐藤武司同窓会会長が「今年は動乱の1年となつた。地球全体が厳しい状況のなか大学がどう生き残っていくか。特に就職に関して、同窓会としてのバックアップを考えて欲しい。また80〜100周年という大きな節目に行われ、小野茂樹氏(前

愛媛支部長)が「同窓生や大学と深く関わり合えたことを感謝している。同窓会と大学のさらなる発展を念じます」と謝辞を述べた。



挨拶する佐藤同窓会会長

続く記念講演会では、大阪で主に韓国からのツアーを扱う旅行会社株式会社「JAPAN」(代表取締役)の代表者が、同窓生に「韓国にいて日流ブームが起きていること、そして韓国人が強く慕われる日本の魅力などについて、さまざまな事例を挙げながらユモアを交えて解説した。

その後、午後1時半からは学生会館2階多目的室で交流レセプションが行われ、恒例の鏡開きに続き、乾杯で、卒業生同士の和やかな歓談が始まった。今回はバンド演奏など例年と異なる趣向もあり、また若いOBやOGの姿も会場に多く見られ



日本の魅力について語る李さん。感がある。15年ぶりに大学に来たという平成8年卒業の若い男性たちは「久しぶりに大学の雰囲気が味わえて楽しかった。これを機にまた集まりたい」と感想を語り、大学時代の思い出話を花を咲かせていた。

創立80周年記念事業募金にご協力を

平素は、創立80周年記念事業に対し、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

このたびの法改正により、2011年1月1日以降のご寄付について、学校法人に対する個人からの寄付の税額控除制度が導入され、従来からの所得控除制度といずれか一方の制度を選択し、適用を受けることができるようになりました。税額控除制度は従来の所得控除制度と比べて小口のご寄付に対しての減税効果が高いことが特徴でございます。詳細につきましては、本学創立80周年記念事業ホームページをご覧ください。

創立80周年記念事業募金状況報告(2011.11月末現在)

区分	新図書館		指定なし		奨学金基金		合計	
	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)
合計	658	58,331,232	289	42,841,550	246	21,358,200	1193	122,530,982
※指定なし：新図書館へ使用する旨、募金趣意書に記載済み								達成率 15.3%

北浜キャンパス入試情報

大学院社会人入学試験(サテライトコース)【春季】

経営学研究科、経営情報研究科

試験日：2012年2月18日(土)

出願期間：2012年1月18日(水)～1月24日(火)※締切日消印有効

選考方法：口頭試問、小論文(専攻による)

学びのポイント：

- ①仕事のリズムを崩さず、平日夜間と土曜日に開講
- ②実務家を教員に招き、実践的理論を修得
- ③学ぶ意欲にチャンス。奨学金制度も充実

北浜キャンパス事務局(06-6231-1570)

2011年度より大学院の学費負担が大幅に軽減されました。

詳しくはwebで！<http://kitahama-osaka-ue.jp>

卒業生からのメッセージ&エピソードを募集(2次募集)しています！

2012年、大阪経済大学は創立80周年を迎えます。そこで、卒業生・在学生の皆様から、「メッセージ」や「エピソード」などを広く募集しています。お寄せいただきましたメッセージやエピソードは本学ホームページなどでご紹介させていただく予定です。皆様のご応募をお待ちしています。

■締め切り 2012年1月31日(火)

詳細は、同封の「応募用紙」とホームページをご覧ください。

大経大 フラッシュ

8/21
OPEN CAMPUS step 3

保護者対象説明会、学部・学科説明会、学生による学部紹介やキャンパスツアーなどを行いました。

10/23
OPEN CAMPUS step 4

2011年度最後のオープンキャンパス。朝から多くの受験生、保護者に来場いただきました。指定校推薦、商業科・工業科・総合学科推薦を2週間後に、公募推薦を1か月後に控え、参加者は真剣な眼差しで入試対策講座に取り組んでいました。

10/22
富永愛氏トークショー
「輝いて生きるために大切なこと
～へこんだって大丈夫!～」

高校生、大学の学生が202名参加しました。富永氏のモデル業や日常生活などの幅広い話を聞くことができました。

11/2
帰宅困難者訓練に参加

大阪市危機管理室によります「大阪駅周辺の帰宅困難者対策訓練」に本学の学生4名、職員8名が参加しました。当日は大阪市内で地震が発生したとの想定で、徒歩やバス輸送での災害時の帰宅訓練に参加しました。

2011年度
第2回課外活動表彰式

10月11日、「2011年度第2回 課外活動表彰式」がC館前にて行われました。顕著な活躍をし、本学の名誉に貢献した事を称え、理事長、学長、同窓会事務局長から励ましの言葉がかけられました。また、受賞者が今後の決意を表明しました。表彰された学生の皆さん、おめでとうございます。表彰者および表彰実績は右のとおりです。

11/12
経営・ビジネス法情報センター
企業セミナー2011

田中総研代表・田中雅子氏によるセミナー「日本一の『実行力』部隊 ユニクロ流『巻き込み仕事術』」が開催されました。

11/12・19
黒正塾9回秋季学術講演会

11月12日 慶應義塾大学 文学部
教授 山本英氏氏
「北京：民族の歴史から見た中国の首都」
11月19日 立教大学 社会学部
教授 阿部珠理氏
「アメリカ先住民は蘇れるか
～ラコタ・スー族の経済・社会・
教育開発をめぐる～」

9/26～10/27
マナーアップ活動に同窓生が協力

本学で実施しているマナーアップキャンペーンに、大樟体育会、同窓会北大阪支部の皆様が協力くださいました。天候にも恵まれ、たくさんの学生、教職員、OBが一体となって活動に励みました。近年、多数の学生にご参加いただいておりますが、今回は同窓生の皆様にもご参加いただき、マナーアップの輪が着実に広がっていることを実感しました。



ハンドボール部	全日本学生ハンドボール選手権大会出場 (26年連続)
茶道部	留学生、保護者懇談会点出し
植田真伍	兵庫県民体育大会バドミントン競技一般男子ダブルス優勝 国民体育大会バドミントン競技兵庫県代表選考会一般男子ダブルス優勝
山本拓哉	関西学生ボクシングリーグ戦敢闘賞
羽生賢一	西日本学生拳法個人選手権大会男子初段二段の部第3位
加治剛	ひつたり事件解決への協力
木村智久	ひつたり事件解決への協力
中西灯	全国大学対抗簿記大会優勝
中島陵太	全日本大学剣道選手権大会BEST16
大脇隆寛	第3回関西学生空手道オープントーナメント優勝
玉置大	第3回関西学生空手道オープントーナメント準優勝
松田有生	第3回関西学生空手道オープントーナメント第3位

第2回
ZEMI-1
グランプリ

江島由裕ゼミ「江島 noodle」が

優勝

第2回ZEMI-1グランプリ(運営/学生実行委員会)が10月29日、A館2～5階の各教室で開催された。が午前9時半に開会式が行われ、その後、午前10時から予選が、午後1時10分から敗者復活戦が、午後2時から予選が、午後1時10分から敗者復活戦が、情報時40分からは決勝戦が行われた。審査基準は、情報収集力・論理性・着眼点・プレゼン力・質問対応力10の5項目。発表時間は予選・決勝戦とも各チーム10分、その後の質疑応答が5分。発表時間が10分を超えた場合は減点となった。



第2回 ZEMI-1グランプリ (ゼミナール大会) 表彰式



チームハットリ君



電気自動車の可能性



江島noodle



徳ちゃん亭・せんべい屋さん



Love&Peace!!



チームSNS

審査員「真剣な姿勢もしい」
表彰式ではまず審査員アシストの杉崎勝氏が「世の中に真剣に考

え勉強している姿が頼もしい。」「江島noodle」が、第2位には藤原忠毅ゼミの「電気自動車の可能性」が、第3位には服部圭介ゼミの「チームハットリ君」が選ばれた。



実行委員

発表
内容
と
コメント

第1位「江島 noodle」 江島由裕ゼミ
テーマ/「ラーメンガール」行列のできる
ラーメン店の可能性とは?

いつも行列のできる1軒のラーメン店に密着。1週間の全営業時間を徹底調査して、行列の実態を分析。バーのような空間づくりやきめ細かい接客により、店側のこだわりと信念が客に伝わり信頼感が生まれていると結論づけた。

「昨年の西日本インカレで本学チームの活躍を見て感動。僕も来年は出場したいと思い頑張りました!」

第2位「電気自動車の可能性」 藤原忠毅ゼミ
テーマ/電気自動車の可能性

どうすれば電気自動車普及するのか。電気自動車の利点・課題点・今後の可能性について調査・分析。価格を下げることで、そして自らエネルギーを「作る・貯める・使う」という自給自足型エネルギー社会を提案した。

「1年がかりの準備でプレゼンに臨んだ。受賞は先生のサポートのおかげ。良い経験になりました!」

第3位「チームハットリ君」 服部圭介ゼミ
テーマ/おとりが秘める可能性

我々の選択はどこまであやふやなのかおとりとなる選択肢を混ぜ込んで質問することの効果、原子力発電再開の是非・政党支持率の変化・臓器移植に対する関心など、社会性の強い3分野で実験調査。世論の誘導など危険な側面も持つおとり効果の有無を検証した。

「ゼミの先生や仲間、後輩など、いろいろな人に支えられて受賞できたのだと思います!」

研究紹介

「人間としてどう生きるのか」「人と人の関わりをどう作り上げていけばよいのか」を、日常生活の具体的な問題に即して研究しています。これは臨牀的なアプローチによる応用倫理学の分野。私は主に「生と性と死の現

より良い生き方、共に考える

「人間としてどう生きるのか」ことはできません。近代社会においては、青年期・壮年期の若く健康な人たちの活力がエネルギー源でした。老化というものは目を背け、視野を狭めて歩んできたのです。しかし人は確実に老いと死を迎えます。特



人間科学部准教授

平等文博

ありませんでした。それが学園紛争などに始まる激動の時代を経て、哲学も現実の社会との接点が必要なのではないか、社会の矛盾や人生の問題解決に力を尽くさないといけないのではないかと考えられるようになってきました。私も1986年に、本学名誉教授の山本晴義先生や特任教授の田畑稔先生らと共に「大阪哲学学校」を立ち上げ、自分たちの研究成果と生活の現場を結びつける活動を四半世紀にわたり継続しています。

今年テレビ放映されたマイケル・サンデルの正義論講義が大きな話題となったように、人生や社会の問題について哲学的・倫理的に考えようとする人は日本においても増えていきます。世界で起きている諸問題や私たちの生き方を、善と正しさという価値の視点からも深く捉え直さないといけないのではない

人間の探究と共生の倫理

私の専門であるこの応用倫理学は哲学の一領域です。かつての哲学は著名な哲学者や哲学史の研究が主流で、普通の人の日常生活と重なり合う部分は殆ど

に仕事一筋で生きてきた男性の場合、定年退職などで老いの問題に直面した時、その現実をどう受け止めて良いかわからず、それが認知症などの発症の背景となるケースもあります。誕生から死に至るプロセス全体が人間の人生ですから、若い人も、老いや死を見据えた視点で自分の生き方をトータルに考える必要があると思います。

私の専門であるこの応用倫理学は哲学の一領域です。かつての哲学は著名な哲学者や哲学史の研究が主流で、普通の人の日常生活と重なり合う部分は殆ど

第1回

世論形成 強まるネットの影響

第1回の講師は、評論家の宮崎哲弥氏(京都産業大学客員教授)で、テーマは「これからの情報社会に求められる人材と教育」情報を知識に変換する。本学経営情報学部の家本修学部長がコーディネーターを務め、トークショー形式で行われた。

宮崎氏は2012年4月から新設される情報社会学部の名称となっている「情報社会」について、「人類は洞窟などで暮らしていた時代から、世代や空間を超えて言葉や思いを伝えあっていた。それが情報社会の始まり」と話をスタートさせ、「近代社会では国家も一つの情報空間。まず新聞が国民の情報の中核となり、やがてラジオからテレビ、そしてインターネットという、より臨場感のあるメディアが出現して政治や社会構造を変えていった。現在は、従来メディアに対する信頼性が低下し、フェイスブックやツイッターを含んだネットによる情報空間ができていく。一方で従来メディアのようなスクリーニングを受けてい

ないネット情報の真贋をどう確かめるか。基本的な能力の差が問われている」と情報社会の変遷や問題点について説明。「日本においてもネットによる世論形成の影響が強まり、従来メディアと補い合うような多様性を取り込んだ世論形成が進みつつある」ことに期待を示した。

そして社会学・経済学・情報学を融合して実践的に学ぶ、新しい情報社会学部について、「大学の人材育成のあり方に一石を投じるかもしれない。大いに期待している」と締めくくった。

宮崎哲弥氏
(京都産業大学客員教授)

情報とどう付き合う？

— 独自の視点で講演 —

創立80周年記念 秋季特別・情報社会学部開設記念講演会

情報社会学部開設記念講演会を兼ねた創立80周年記念秋季特別講演会が、第1回は11月8日、第2回は11月18日午後4時半～6時、それぞれA館フレアホール、D館36教室で行われた。今回のテーマは「情報」。現代社会にあふれる「情報」というものの原点を見つめ直し、それをどう収集・分析して自らの行動に活かし、物事を進めていけばよいのか。テレビやネットなどのメディアでも活躍する二人の講師が、独自の視点で講演した。

第2回

ソーシャルメディアで リアル充実させよう



津田大介氏

(早稲田大学大学院政治学研究科
ジャーナリズムコース非常勤講師)

第2回の講師は、メディア・アクティビストの津田大介氏(早稲田大学大学院政治学研究科ジャーナリズムコース非常勤講師)で、テーマは「情報人」になる。情報に使われるのではなく、使いたい。津田氏は自身の経歴について「本業はジャーナリストだが、独自の情報メディアを創るなど情報発信をビジネスにしている」と紹介。そして「情報をめぐる環境が激変した。従来のマスメディアでは我々はキャッチャーに過ぎなかったが、ソーシャルメディアは双方が球を投げ合うキャッチボールだ」と前置き。ソーシャルメディアという新しい情報メディアについて、「速報性や伝播力の強さ、共感の生じやすさ、具体的な行動の促進といった特徴を持っている。これまで接点の無かった人が自然につながりムーブメントが起きる」と説明。そしてソーシャルメディアを活用して「情報人」になるには「共感性・新規性・リアルタイム性が重要。ソーシャルメディア



の三つの特性を提示できれば、本人が無名でも話題になっていくと聴講者にアドバイス。そのうえで「今後の社会活動では、ソーシャルメディアによる情報発信が鍵になる。活動が効率化し、アイデアや物事が実現する速度が上がっていくだろう。コミュニケーション革命が起きていることを正しく認識し、リアルを充実させるための道具として、インプットとアウトプットのバランスを取りながら、ソーシャルメディアを積極的に使っていく」と訴えた。

第5回黒正杯日本語スピーチコンテスト

練習の成果、
流暢な日本語披露

第5回黒正杯日本語スピーチコンテストが11月19日午後2時半～4時、B館32教室で開催された。今回のコンテストには8名の中国・台湾人留学生が参加。時事的なテーマを選び、内容を練り上げ、練習を重ねた成果を流暢な日本語で披露した。

コンテストに先立ち、きた日本語の力を発揮し、徳永光俊学長が「学んでほしい。頑張ってください。」と激励した。

さい」と激励。続いて審査員委員長の田中邦夫教授(人間科学部)と、審査委員の岡立雅教授(国際交流委員)・経済学部、崎田洋一事務局長が紹介された。そして審査委員長(田中教授)が「日本語の流暢さや発音を含む話者の表現力、内容の深さ、そして審査員としての評価基準(20点満点)を説明。続いて紹介された学生サポーターの山本晃平さん(MC/経営情報学部3年)、書島美保さん(タイムキーパー/経済学部3年)が制限時間3分などのルールについて説明した。

その後、8名の演者が多様なテーマで、自身の体験に基づいた優れた日本語スピーチを展開。審査の結果、最優秀賞には周伝人さん(シウ・デニン)さん、優秀賞には黄姿媛さん(コウ・シエン)さん、敢闘賞には岡九齡さん(エン・ジュウリン)さんが選ばれた。受賞者には草雄信昭副学長がトロフィーや表彰状、副賞(図書券)を授与。草雄副学長は「日本人が感動するような日本語のスピーチをありがとう」と演者全員をねぎらった。また審査委員長の田中教授は、「甲子付けがたく審査に苦労した。非常に良かった」と賞賛しながら一人ひとりのスピーチを講評。「これを機に日本語・日本文化・社会経済について、さらに勉強してほしい」と語りかけた。そして岡立雅教授が「外国語の習得は難しく、日々の努力が欠かせない。今後のさらなる勉強と活躍を祈る。来年度はもっと多くの学生が参加するよう頑張りたい」と挨拶し、スピーチコンテストは閉会した。

出場者を激励する徳永学長

第5回 黒正杯
日本語スピーチコンテスト

(左から)敢闘賞の岡九齡さん、最優秀賞の周伝人さん、優秀賞の黄姿媛さん

最優秀賞は周伝人さん

田中教授は、「甲子付けがたく審査に苦労した。非常に良かった」と賞賛しながら一人ひとりのスピーチを講評。「これを機に日本語・日本文化・社会経済について、さらに勉強してほしい」と語りかけた。そして岡立雅教授が「外国語の習得は難しく、日々の努力が欠かせない。今後のさらなる勉強と活躍を祈る。来年度はもっと多くの学生が参加するよう頑張りたい」と挨拶し、スピーチコンテストは閉会した。

スピーチ概略



周伝人さん

自分の限界を
超えよう!!!

留学生活は楽しいことばかりではなかった。人生で初めてのアルバイトでは行動が遅いなどと先輩たちに叱られ、心に打撃を受けた。しかし日本人の先生に言われた「ダメだと思った時こそ、もう少し頑張れ」という言葉を思い出し、心機一転、自主的に仕事に取り組んだことで仕事を楽にできるようになった。試練に立ち向かわないと成長できず、新しい自分を作れないことがわかった。



黄姿媛さん

クリックの光と影

インターネットの世界では、クリックという簡単な操作で資料が見つかり、世界の情勢を把握するなどさまざまなことができる。一方でネットによるいじめ事件なども多く報道され、ネット中毒という深刻な精神的・健康的問題もある。しかし親が子どもと一緒にネットを使いながらマナーなどを教えれば、ネットの光の部分を広げて本来の価値を生かせるようになるのではないか。



岡九齡さん

若者言葉

「ギャル語」を初めて知ったのは高校時代。日本人の先輩に「KY」と言われたことがきっかけ。先日バイト先の女の子に「おっさん」と言われて怒ると、「お疲れさん」の意味だという。ギャル語には批判もあるが、どの国や時代にも若者文化があり、それは若者の個性。私たち留学生も若者の一員。正しい日本語だけでなく、教科書にない若者らしい日本語も知っておきたい。



王帆さん

もう少し待てば、
桜が咲く

大震災を経た今年の桜は以前よりきれいだと感じられて感動した。3月11日以降、被災地より遠く離れた大阪に居ても不安でいっぱいだったが、両親のアドバイスもあり、「万が一の時には日本人のみんなが助けてくれる」と信じていた。東日本大震災で日本人は団結心と心の強さを世界に示した。人も国も傷が多いほど強くなれる。来年の桜は今年より、もっと美しく咲くことだろう。



何鵬さん

詩吟教室から
もらったプレゼント

日本語を習得する難しさを感じていた時に詩吟教室のポスターが目に入り、日本文化や日本人の考え方を理解できるのではないかと思い入会した。多様な年齢の人たちが熱心にまじめに練習する姿に感動すると共に、教室で多くの事を学んだ。日本語に対する自信もついた。テレビ、インターネットなど日本語を学ぶ方法はいろいろある。自分に合った方法を見つけて楽しく学ぼう。



陳聖輝さん

なぜ中国は
原発が必要なのか

日本でも世界でも原発への批判が高まるなか、中国では原子力発電を推進する方針を変えていない。現在13基の原発が稼働中だが、さらに28基の建設工事が進められている。中国が原発のさらなる開発を急ぐのは、急激な経済成長による深刻なエネルギー問題があるから。原子力発電はエネルギーの安定供給・地球温暖化対策の面で優れている。中国には原発が必要だと考える。



丁小桐さん

繊細美……日本

京都の金閣寺に遊びに行った。日本文化を体験したような繊細な造りの建物と風景に心酔した。この精巧さこそが日本の文化や芸術の大きな特徴。日本で科学技術が発達しているのも、国宝と言われる職人が多く存在するのも、細かい事にこだわりの魂があるから。先進技術の探求に疲れた人は、このような繊細な美を追ってあることで心が癒やされ新たな力が湧くのではないか。



肖鎮峰さん

感動された
日本の強さ

東日本大震災では大阪でも大きな揺れがあり、不安と恐怖を感じた。テレビが映し出す悲惨な光景に精神的ダメージを受けた。しかし当時の映像は冷静さを失わない日本人の姿を世界に伝え、困難な時に助け合う精神や心の強さを世界が賞賛した。日本は冬になりさらに寒くなるが、東北の人たちはきっと、日本人が大好きな桜と同じように、冬を越えて花を咲かせると信じている。

ビブリオ・バトル
知的書評合戦開催

初代王者は丹羽淳貴さん



初代王者となった丹羽淳貴さん

お気に入りの本の魅力を口頭で5分間で紹介し、どの本が一番読みたくなったかを決める「ビブリオ・バトル(知的書評合戦)」が11月11日に図書館で開催されました。

「ビブリオ」は書物を意味します。ゲーム感覚を取り入れた全く新しいスタイルの書評合戦です。ルールは次の通りです。

- ①発表者はそれぞれお気に入りの本を見つけその本を読みます。
- ②順番に読んだ本について、1人5分程度で紹介します。自分の言葉で本の面白さを伝えます。
- ③発表終了後は、他の発表者や観客から質問を受け、本の内容について理解を深めます。
- ④最後に「どの本が一番読んでみたかったか」の多数決を行い、「チャンプ本」を決定します。

優勝(チャンプ本)は、「人間機械論」(ド・ラ・メトリ著)を紹介した丹羽淳貴さん(経営情報学部3年)でした。ビブリオ・バトルは本学で初めての試みでしたが、学生スタッフや観客としてご参加していただいた方々のご協力により、無事終了することができました。

発表書籍

紹介書籍	著者	発表者	学部・学年
砂漠	伊坂幸太郎	夏山千智	経済学部3年
池袋ウエストゲートパーク	石田衣良	古川香織	人間科学部2年
永遠の0	百田尚樹	今井敏弘	経済学部3年
大衆の反逆	オルテガ・イ・ガセット	形田照章	経営学部3年
学問のすすめ現代語訳	斎藤孝訳	森田竜士	経済学部3年
星を継ぐもの	ジェームス・P・ホーガン	仲宗根啓晋	経済学部3年
人間機械論	ド・ラ・メトリ	丹羽淳貴	経営情報学部3年

チャンプ本

晴れやかな笑顔を見せる受賞者ら



17歳からの メッセージ

表彰式

感動の種 生きる力に

全国444校参加 グランプリは3点

第11回高校生フォーラム「17歳からのメッセージ」表彰式が11月5日、学生会館2階多目的ホールで行われた。

今回は北海道から沖縄まで全国444校の高校が参加。2万884点の作品が寄せられ、厳正な審査の結果、グランプリ3点、学生審査員賞1点、金賞8点、銀賞65点、奨励賞74点が選定された。グランプリについては、「世の中の出来事から考える未来」部門に今年度は該当作品がなく、「今までの自分、これからの自分」部門で、北村聖良さん(星翔高等学校/大阪府)の「笑って、笑って」と、國澤優花さん(土佐塾高等学校/高知県)の「反抗期のススメ」が、今これだけは言いたい!」部門では、住田新太郎さん(愛媛県立松山西中等教育学校/愛媛県)の「はあちゃんのいなすし」が選ばれた。また本学学生による学生審査員賞として、「世の中の出来事から考える未来」部門の田原彰二さん(宮崎県立佐土原高等学校/宮崎県)が選ばれた。

表彰式で挨拶する徳永学長



グランプリ 学生審査員賞 受賞者ひとこと

北村聖良さん

(星翔高等学校/大阪府)

高校に入って家族を大切に思う気持ちが強くなりました。思っていることを文章にするのは難しかったので、グランプリと聞いて驚きました。母も泣いて喜んでくれました。

國澤優花さん

(土佐塾高等学校/高知県)

原稿用紙に向かうと勝手に手が動いて、流れるように書き上げることができました。書いて自分を表現することは好きなので、グランプリの受賞は自信になりました。

住田新太郎さん

(愛媛県立松山西中等教育学校/愛媛県)

今の社会では、人と人のつながりや高齢者との関わりが大事だと思うので、それを伝えたいと思いました。読む人に、自分の言いたいことが伝わって良かったです。

田原彰二さん

(宮崎県立佐土原高等学校/宮崎県)

社会的なことに興味があり新聞もよく読みます。実際に体験したことなのでサラサラ書けました。作文には苦手意識がありましたが、少し自信が付きました。



右から北村さん、國澤さん、住田さん



表彰状を受け取る國澤さん(右)

書く喜びを大切に

第2部のパーティーでは、まず本学の勝田泰久理事長が挨拶。「今年で11回目を迎える約30万人の高校生とつながることができた。これからも書く喜びを大切にしたい。そしてこのフォーラムを高校の後輩たちにPRしてほしい」と述べた。ジュースなどによる乾杯の後、会場では、受賞した高校生同士や、付き添いの保護者・教諭が和やかに談笑する姿があちこちに見られるなど、にぎやかな交流の輪が広がっていた。



講評を述べる柏木教授

内容の価値は同じ。素晴らしい作品が多かった」と全体を総評し、個々の受賞作品について

も、その視点や個性的な表現などを賞賛した。そして表彰式に参列したグランプリ・金賞・銀賞・学生審査員賞の受賞者に、徳永学長から表彰状が手渡された。

2012年度一般入試

前期

●A方式(2教科)入試

■出願期間

2012年1月5日(木)～1月20日(金)

締切日消印有効

1月21日(土)持参受付(本学)

■試験日

2012年1月30日(月)、1月31日(火)、2月1日(水)

試験日自由選択制

■合格者発表

2012年2月15日(水)

■試験地

大阪(本学・大阪南)、京都、奈良、和歌山、岡山、高松、金沢、米子(30、31日のみ)、松山(30、31日のみ)、福岡(30、31日のみ)

●B方式入試

■出願期間

2012年1月5日(木)～1月26日(木)

締切日消印有効

1月27日(金)持参受付(本学)

■試験日

2012年2月6日(月)、2月7日(火)

試験日自由選択制

■合格者発表

2012年2月15日(水)

■試験地

大阪(本学・大阪南)、京都、神戸、岡山、高松

●C方式入試(大学入試センター試験利用)

■出願期間

2012年1月5日(木)～1月26日(木)

締切日消印有効

1月27日(金)持参受付(本学)

■試験日

2012年1月14日(土)、1月15日(日)

※本学の個別学力検査はありません。

■合格者発表

2012年2月15日(水)

後期

●D方式入試

■出願期間

2012年2月16日(木)～2月27日(月) 締切日消印有効

2月28日(火)持参受付(本学)

※異なる2学科の併願が可能

■試験日

2012年3月5日(月)

■合格者発表

2012年3月10日(土)

■試験地

大阪(本学)、京都、奈良、岡山

※詳細は本学WEB、入試要項にてご確認ください。
問い合わせは本学入試部まで。